

はじめに

横浜市の南方、約20万人の人々が暮らす金沢区の南東部に位置する「金沢文庫駅東側区心部一帯地域地区（以下、金沢文庫駅東側地区という）」は、寺前・町屋・洲崎・平潟・金沢・谷津・泥亀の一部を含んだ面積約180ha・人口約27,000人の地域です。

国道16号と京浜急行を交通の軸として、行政機関や業務施設、大型商業施設などの区心としての機能が集積しており、称名寺や金沢文庫などの歴史、文化の色濃いエリアやシーサイドライン沿いの海の公園の開放的なエリアに囲まれる形で住宅街が形成されています。

しかし、戦後初期の入り海埋立後の住宅地開発により木造住宅が密集し、複雑な道路形状を形成しており、交通の利便性や防災上の危険性、住民の高齢化や人口減少に伴う将来の福祉、コミュニティのあり方等について様々な問題や課題が挙げられています。

一方、当該地区の交通結節拠点である金沢文庫駅の東側においては、金沢文庫駅東口地区第一種市街地再開発事業（ ）（ 解説はp51以降の用語解説を参照ください。）の都市計画決定がなされており、「金沢文庫駅周辺地区」は「街づくり協議（ ）地区」に指定されています。

また、平成11年度には、地区の西中央部の八景小学校脇に複合福祉施設「いきいきセンター金沢」が開設されるなど、福祉活動の拠点としての位置付けも高まっています。

本書では、まち歩きやワークショップなどを通じて、地域の声を聞きながら、まちの現況・課題を抽出し、“まちの将来像”と各テーマごとのまちづくり方針を示しています。

さらに、まちづくり方針を体现するものとして、まちづくりプロジェクトを整理することにより、地域住民、行政等の役割を明らかにしています。

地域住民と行政との議論を経て作成された金沢文庫駅東側地区プランには、地域の想いが詰め込まれており、今後のまちづくりに向けて、関係者の共通の手がかりとなることを期待しています。



「金沢文庫駅東側地区」の範囲

金沢文庫駅東側区心部一帯地域 地区プラン

目 次

はじめに

第 1 章 金沢文庫駅東側地区プランについて 1

- (1)金沢文庫駅東側地区プランの基本的な位置付け
- (2)金沢区プランにおける金沢文庫駅東側地区の方針
- (3)地区プラン策定の経緯
- (4)地区プランのねらいと構成

第 2 章 地区の現況と課題 7

2 - 1 . 地区の現況

- (1)沿革
- (2)都市計画
- (3)土地利用
- (4)交通環境
- (5)公園・緑地等
- (6)人口
- (7)コミュニティ
- (8)防災
- (9)文化

2 - 2 . 地区の課題抽出



第3章 まちづくりの目標と方針23

3-1 まちづくりの目標と将来像

3-2 テーマ別まちづくりの方針

テーマ1 住環境・市街地整備の方針

- 方針1 密集市街地の住環境改善
- 方針2 地区の拠点となる施設の整備
- 方針3 後背住宅地との調和のとれた地区幹線道路沿道の街並み誘導
- 方針4 良好な地域環境を踏まえた市街地の形成

テーマ2 道路・交通環境整備の方針

- 方針1 地区の骨格となる東西道路の整備
- 方針2 狭あい道路の拡幅
- 方針3 安全・快適な歩道の整備
- 方針4 地区の回遊性・利便性・安全性を高める施設の整備・改善
- 方針5 金沢文庫駅周辺における福祉のまちづくりの推進
- 方針6 地域住民と行政との協働による道路・交通環境の改善

テーマ3 水・緑・歴史資源整備の方針

- 方針1 地域資源の地域住民への周知
- 方針2 地域資源の保全・創出
- 方針3 地域資源の維持管理
- 方針4 回遊散策ルート整備
- 方針5 地域資源の情報発信

第4章 まちづくりプロジェクト33

金沢文庫駅・駅周辺再整備プロジェクト
密集市街地住環境改善プロジェクト
地区の骨格となる東西道路整備プロジェクト
水・緑・歴史の環境整備プロジェクト
金沢区心コアゾーン再整備プロジェクト
アクセス利便・安全性向上プロジェクト

用語解説51

(本文中、印のついた用語については解説を加えております。)